

# 農業技術 プリズム

近年、輸入飼料や肥料などの価格が高騰し、高品質自給飼料の重要性が高まっています。長崎県内では冬作中心の栽培体系が一般的ですが、高品質飼料の安定確保のためには夏作も重要です。

一方、暖地型イネ科牧草は出穂期を過ぎると粗タンパク質（CP）含量の低下が著しく、収穫適期が短いことが知られています。

そこで、九州本土では出穂しない特性を持つ極晩生ギニアグラス「うーまく」について、県内で普及しているスーダングラス「ヘイスーダン」と比較して、CP含量に着目した収穫適期幅を検討しました。

同日に播種（はしゆ）し、「ヘイスーダン」の出穂期を基準日として10日間隔でCP含量を調査した。結果、「ヘイスーダン」のCP含量は、基準日では日本標準飼料成分

## 夏作で飼料品質確保

### 極晩生ギニアグラス 収穫適期30日程度に

表の数値以上でしたが、10日目以降は成分表の数値を下回りました（収穫適期は10日間未満）。

これに対し、「うーまく」のCP含量は、基準日から30日目までは成分表の数値以上か同程度で推移したことから、「うーまく」を活用することにより、収穫適期を30日間程度に延長できることが分かりました。（この研究は革新的技術開発・緊急展開事業により実施しました）  
（長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門 大家畜研究室 主任研究員 緒方剛）

